

令和7年度第1回市立旭川病院経営委員会 会議の記録

- 1 日 時：令和8年3月2日（月） 18時～18時49分
- 2 場 所：中会議室（外部委員はZOOMによる参加）
- 3 出席者：（内部委員7人）
石井委員長、垂石委員、笹村委員、村上委員、竹内委員、古川委員、木村委員
（外部委員4人）
東委員、小関委員、小塚委員、宮嶋委員（滝山委員は欠席）
- 4 資 料：
- 5 会議内容（主な意見や質問の要旨）

委員

明るい材料もあり、手術件数が増加しているのは良かった。

3点確認したい。

この経営計画では診療報酬の改定を見込んでいるのかどうか。

また、コンサルより助言で診療情報提供料の見直しが良かったと聞いたが、具体的に元々低かったから良くなったのか、工夫をして良くなったのか、教えてほしい

あと、企業債で収支均衡にしてその間に改善を目指すという説明だと認識しているが、いずれは返済しないといけないと思うが、返済期間を教えてほしい。

事務局

診療報酬改定率については、最後の資料でも説明する予定だが、ある程度見込んでおり、機械的に全体の報酬改定率から薬価を引いて1.54%で予算を組んでいる。

企業債の返済は15年上限となっており、今のところ15年返済で考えており、利息もついてプラスして返済することになる。

委員長

逆紹介については、紹介された患者を100%帰さなくても、例えば、循環器内科で検査をするけれども、今後当院で検査してもらう、通院もしてもらうが、普段処方されているコレステロールや胃薬などは、クリニックで通院してもらうという、返す部分と当院で継続するのがあった場合でも逆紹介になるという判断を今までできてなかった。

委員

救急車搬送件数、クリニック紹介件数の増で手術件数を増加させていくのは非常に有効な手段であるし、実際に患者数も増加しているというのは安心している。

手術室の空き状況、看護師の人員配置について、2,520件は現在の設備状況、人員体制で受け入れることができるのか。また、100%稼働させるならどれくらい件数を増

やせるのか。

委員長

当直の医師に対して、なるべく断らないようにということでお願いして増加している。

先ほども事務局から説明がありましたとおり、整形外科と血管外科の手術の増でトータルの手術件数が増加した。

現在、手術室は7室あるが、結構空いてる時間もある。例えば、今まで1人の患者さんしかやってなかった時間帯を縦に行うとか、少し空いてる時間に工夫して行うとかすれば、手術室のキャパシティの状況では可能だと考えている。

人員的には、当然、手術件数が増えれば看護師数なども考えていかなければならないが、職員数を増やしたりして臨機応変に対応できると考えている。

委員

別の病院で手術室が満杯で受け入れない事例もあると聞いたので参考に聞いてみた。

委員

素朴な疑問として、この計画どおりにいかなかった場合にどうなるのか、もしかすると室蘭市立病院のようになるのか。

また、こうならなかったときの責任は誰がどのようにとるのか。もしくは計画どおりになったときのリワードというか、そういうものは職員の皆さんにあるのかどうか。計画どおりにいかなかったときのサンクションがあるのかどうか。

計画ができあがって理事者ばかりが達成しますというが、もし達成できなかった場合にどういうことが起こるのかということについて、現場の職員はわかっているのかということ。そうなったときにどういう将来が待ち受けているのか、誰がどう責任をとるのか。

委員

明確にお答えするのは難しい質問であるが、まず、現時点で、私どもはそうならないように頑張っているので、基本的にそうならなかった時のことをあらかじめ明確に想定してるものは正直ない。

ただ、現実的に室蘭市立病院の状況があるので心配されるのはわかるが、私の個人的な意見もあるが、当院はああいう形にならないように考えている。

この場では、当院の経営状況の説明にはなっているが、もっと大きく捉えると、地域医療をどう存続させていくかになると思われる。

今後は、当院のみの経営状況ではなくて、市内の基幹病院全体で地域医療をどうさせていくのかという方向も議論に合わせてしてなければならないと考えている。

最終的に、なかなか閉院という選択肢は、基本的に取り入れるべきではないと考えてい

る。そのときの病院の経営陣にも責任がありますし、病院の存続あるいは閉鎖という中身によっては、設置者責任というものも出てくるのではないかと思われるが、何度も申し上げているとおり、そういったことをあらかじめ今想定しているわけでないので、明確に、そうになっているのではなく、そういうことも考えられるということで、御理解いただきたい。

委員

令和13年度に資金不足比率が19.5%とあるが、20%超になると自主的・自立的な運営が困難とあるが、ぎりぎりということではないか。

ここまで経営が行き詰まっているということは病院のホームページなどで広報やアナウンスをしているのか。

これだけ赤字が続いて借金していると大変な状況になるが、旭川も大変だと思う。

例えば、民間だと、理事者の給与削減とか、職員の給与削減とか、そういうサンクション、背水の陣だっというような、こう危機感っていうのがあまり感じてこないの言わしてもらった。

委員

広報に関しては、経営委員会の資料、会議録についてホームページに公開している。今回の資料も公開はさせていただく。

危機感をどのように職員全体で醸成していくかというところだが、院内の会議等で話をしており、今ある状況が必ずしも100点満点とは言えないが、継続的に意識の醸成だったり、市立病院では議会対応もあるので答弁の中でも情報公開ということもさせてもらっているが、なかなか市民の皆様が届いていないところもあろうかと思われるので、先ほど説明の中でもホームページやSNSの広報強化ということを説明してもらった。当院にとって良い話だけでなく、少し厳しい話も市民や地域住民と情報共有できたら良いと考えている。

委員

コロナ後、経営が大変ということで、大変苦勞されていると思う。市民としてお礼申し上げます。

市立病院へのアクセスが不便と感じている方が多いと感じている。

また、患者数の増加のためにはPRがもう少し必要なのではないかと思います。

それで提案をご提案させていただきたい。

広報あさひばしが毎月発行されているが、毎月、市立病院だよりというのを必ず出していきたい。そこで病院のこと、相談室の案内をしたり、市民の健康を守る市立病院ですよ、と標語を掲げて毎月発行すると、市民の目にとまってやはり身近に感じてもらえる。是非お願いしたい。

もうひとつは、ロビーコンサートをたまに実施されていると思う。子供食堂では毎月50人くらい来るが12月のクリスマス会では137名来た。というのもコンサートを行ったから。参加率が全然違う。せっかくロビーがあるので実施してみてもどうか。

それからもうひとつ、外来患者と入退院時を無料にしてはどうか。

委員長

コンサートは、コロナ前は結構実施していた。最近は実施していないが、近々、再開する予定がある。

それからあさひぼしに関しては、以前は毎月ではないですが、2か月に1度ぐらい文章を書いてアピールしてた時期もあった。それが今実施していないので、市側にも賛同してもらいように働きかけていきたい。

委員

苦しい経営状況は理解するが、グラフで令和10年度、11年度と急激に資金不足比率が悪化するの心配である。何か他に要因があるのか。

事務局

令和8年度、9年度、企業債を借り入れて改善する見込みである。収益については、患者数を310人から328人まで増加させることで見込んでいる。また、診療単価も79,000円まで上昇させるということで、マイナスを徐々に下げていくとこういうカーブになっている。

委員

先ほど厳しい質問があったが、伸び悩んでいる診療科もあると記載がある。

他の病院と相談しながら縮小していく、切り捨てるというか、すべての診療をすべきかどうかという問題もあるのではと思うが、それに対する考えを聞きたい。

他病院の例もあるが、基幹病院で相談しながら実施した方が良いのではと思うが、診療自体を縮小していくような計画があるのか聞きたい。

委員長

計画どおりにいかずに、医師不足等で科を運営継続できなくなるという状態はある。それ以外に関しては、例えば急性期の総合病院として、市民の病院として、やはり急性期に関わる科を全て無くすというのは、どこの病院も大学病院以外は全て完璧に揃っていないと思われる。

病院の特徴を活かした住み分けを今後考えていく必要があると思うが、ただ例えば、消化器内科を無くして、消化器外科だけ残るとか、そういうことは、診療の連続性を考える

とまず無理だと思う。診療科によってはそういう動き、必要に迫られているか、経営を考えてか、それはわからないが、そういう道筋を考えていかなければならないが、現状では、なるべく受診いただいた患者さんがひとつの病院内で解決できる病院であり続けたいと思っている。

委員

素晴らしい考えであるが、5つの病院が連携すれば1つの病院となる。存続することの方が大事だと思う。

6 結 論

計画の見直し案に対し、変更を求める意見がなかったため、了解を得たものとし、原案を第4次中期経営計画（令和7年度改訂版）として決定する。